

環境改善を実施した林内ホダ場に伏せ込んだホダ木から発生した子実体の放射性物質濃度の変化 (2)

—伏せ込みから約2年半後(27年4月)の結果—

1 はじめに

林内ホダ場における放射性物質の影響を明らかにするため、A₀層除去(以下「環境改善」)後のホダ場に放射性物質濃度(以下「濃度」)の低いホダ木を伏せ込み、濃度の変化を調べています(林業技術情報No.54、57)。今回は、No.54の後に環境改善を行った林内ホダ場(No.60)で、伏せ込みから約2年半後の子実体の濃度を測定しました。

ると、スギ林とアカマツ林で高くなりました。

濃度の高かったホダ木下部の子実体について、ホダ木の濃度との関係を見ると、ホダ木の濃度が高いほど、子実体の濃度も高い関係がみられました(図2)。このことから、濃度の低い原木を使うことの重要性が確認できました。

2 調査方法と結果

【方法】平成24年11~12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地に、A₀層除去区と非除去区を設けました。同年12月に、ホダ木をヨロイ伏せで伏せ込みました。本数は除去区で75本、非除去区が225本です。平成27年4月に、子実体をホダ木の上、下および横木に分けて採取しました。次に乾燥、粉碎し、子実体重量の4.7倍量の水を加えて濃度を測定しました。また、ホダ木の下部から採った子実体とホダ木の下部(No.77)で、Cs-137の濃度を比べました。



A₀層除去2年半後のホダ木と子実体(スギ林)

【結果】いずれの条件でも、子実体から放射性物質が検出されました。しかし、濃度の平均値(図1)、最高値は100Bq/kg未満でした。濃度を調査地で比べると、スギ林>アカマツ林>広葉樹林の順に高く、除去区と非除去区で比べると、スギ林とアカマツ林では、除去区が非除去区より低い傾向を示しました。子実体の濃度を、採ったホダ木の部位別に比べると、除去区では差はありませんが、スギ林とアカマツ林の非除去区では、ホダ木の下部(濃い青色)から採った子実体で、やや高い傾向がみられました。子実体の濃度を1年前(図中◇)と比べ

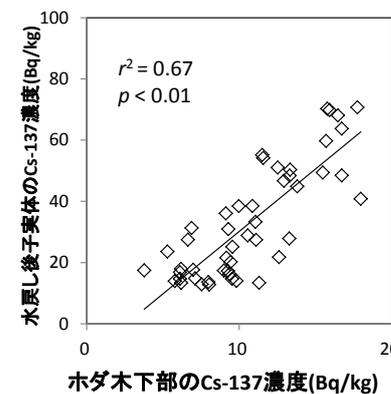


図2 ホダ木(含水率12%)と子実体の濃度の関係

3 成果の活用

環境改善の効果は実施2年半後も続いていることがわかりました。濃度は今後変化する可能性があります。引き続き、ホダ木や子実体の放射性物質濃度を調査していく予定です。

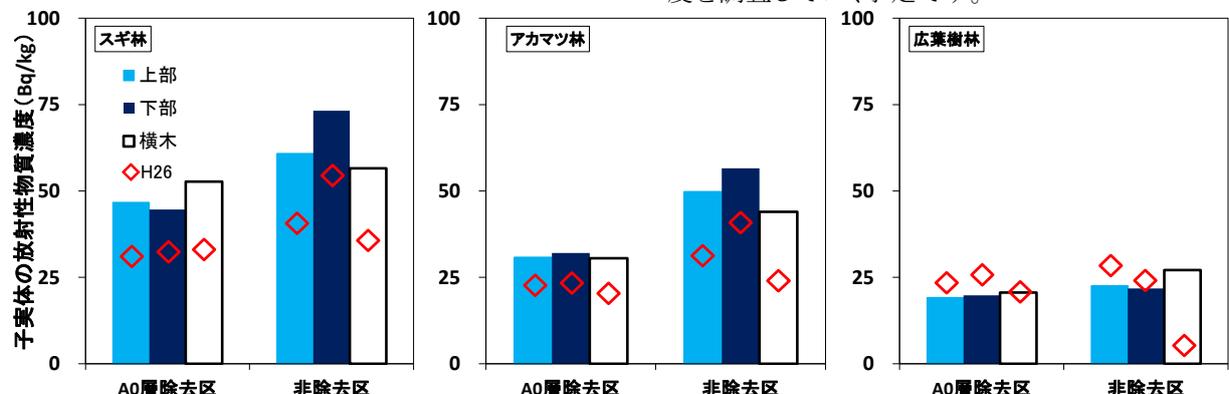


図1 伏せ込み2年半後の子実体の放射性物質濃度

(担当 研究部 主査専門研究員 成松 眞樹)

| | | |
|-----|--|--------------------------------------|
| 連絡先 | 028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/ | TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410 |
|-----|--|--------------------------------------|